

【事例紹介】

ASEAN からの留学生を継続的に受け入れ、 交流事業を実施

－ アスジャ・インターナショナル －

Continual Intercultural Exchanges between Japan and
International Students from ASEAN: ASJA International

アスジャ・インターナショナル事務局主幹 萩原 知加子

HAGIHARA Chikako

(Manager, ASJA International)

キーワード：アスジャ・インターナショナル、外務省、ASEAN、ASCOJA、元日本留学生会、
文部科学省国費留学生、福田ドクトリン、国際連携プログラム、グローバル化

1. アスジャ・インターナショナルとは

アスジャ・インターナショナル（以下、アスジャという。）は、2000年4月に設立された国際的な組織である。当初5か国で発足し、現在10か国が加盟している。（加盟国：インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス、ブルネイ）

アスジャは、日本国外務省の拠出金を受けて、ASEAN元日本留学生評議会（ASEAN Council of Japan Alumni, ASCOJA（アスコジャ）。以下、ASCOJAという。）に加盟する各国元日本留学生会が推薦する奨学生制度を運営してきた。日本の大学院における教育研究を支援するとともに、留学生に日本語習得、日本文化の体験、日本人との交流の機会を提供し、留学生が将来の日本とASEANの架け橋となるリーダーを育成することを目的としている。各国1名の奨学生を受け入れ、2017年度までの修了生は137名である。

2009年の「事業仕分け」を受け従前のアスジャ奨学金制度は廃止されたが、2014年度の政府予算において新たに「アセアン留学生交流等拠出金」が計上され、文部科学省国費留学生として奨学金を受給しているASEANからの留学生を対象に、交流事業は引き続き実施できることになった。2018年度はASEAN10カ国から各国元日本留学生会が推薦した国費留学生（大学院生、学部生）20名をアスジャ国費留学生として採用した。これにより、2018年度のアスジャ国費留学生は、大学院生67名、学部生

11名の計78名である。2019年度には大学院生18名、学部生1名の計19名が採用され、新たにアスジャに加わることになっている。

アスジャは、ASCOJAからの留学生を継続的に受け入れ交流事業を実施している組織として、ASEAN留学生交流分野における唯一の組織であるとされている¹。

2. アスジャの交流事業

アスジャが2000年の設立以来実施している交流事業は、留学生が来日する4月の「オリエンテーション」に始まり、3月の「アスジャ国費留学生修了式」で終わる1年間のプログラムで構成されている。

5月には「新入生歓迎会」、夏には「国際理解教育のための学校訪問」や一般の日本人家庭での「ホームステイ」、日本人の大学生と3泊4日にわたり都内で英語合宿を行う「アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ」、秋には日本の地方に3泊4日で出かけ、地方の元気な日本企業を見学し地域の自然文化を学ぶ「地方産業文化体験」、その他、歌舞伎や能楽、茶道など日本の伝統文化を体験する「日本文化体験」、アスジャ国費留学生が自ら企画・運営・実施し、母国やASEANについて紹介する「ASEAN祭り」もあり、年間を通して多岐にわたるプログラムである。

以下、各事業について紹介する。

(1) オリエンテーション

- 新しくアスジャ国費留学生（以下、アスジャ生という。）となった者を対象に、2泊3日の合宿を通じ、アスジャの設立趣旨、これまでの歩み、事業の内容・特色等についてアスジャ生が理解を深めるとともに、アスジャ生としての自覚と使命を認識させる事業である。
- 東京・渋谷区にある国立オリンピック記念青少年総合センターで新入生と先輩学生が一緒に合宿し、寝食を共にする機会を設け、アスジャ生同士のより強固なネットワーク作りを可能としている。
- さらには、先輩からアスジャについての様々な体験談を聞くことで、新入生がアスジャでの新生活をより鮮明に思い描くことができている。



(2) 新入生歓迎会

- 外務省、文部科学省、関係機関・団体等の関係者、及び先輩のアスジャ生を招いて実施している。
- 新入生は日本語で自己紹介スピーチを披露することが毎年恒例になっている。来日後まもない時期ではあるが、日本語ができてできなくても、事務局のサポートを受けながら全員がスピーチ作りを行う。歓迎会までにスピーチの練習をし、当日は大いに緊張しながらも、これからの留学生活への期待を堂々と述べ、決意を新たにしているようである。
- 自己紹介スピーチに続いて、来賓や在校生より新入生への歓迎の言葉をもらい、その後は来場者が自由に歓談し情報交換を行っている。新入生は、自分たちが多くのアスジャ関係者に歓迎され、彼らの留学生活が多くの人々によって支えられているということを実感したと感想を述べている。

(3) 国際理解教育のための学校訪問

- 日本の小学校に留学生を講師として派遣し、自国の文化習慣等を教える授業に協力するとともに、小学生がASEANの国々への理解を深め異文化に触れることで、偏見を持たない子供の教育に貢献することを目的としている。
- 同時に、アスジャ生が日本の初等教育の現場において日本の若い世代と直接交流し、日本の初等教育について学ぶ貴重な機会となっている。一例として、日本では実技科目があり、情操教育や体力作りも行われている点、学校給食により食習慣が身に付き、食の安全や衛生観念についても学べる点、クラスメイトと一緒に掃除もし、このような協働作業により社会活動や人間関係、社会責任について学び連帯意識も芽生える点を、日本の初等教育の利点として挙げている。
- 明るく活発で規律正しい日本の小学生たちと触れあうことができるため、毎回の参加を楽しみにしている学生が多い。

(4) ホームステイ

- 新入生を対象に、栃木県小山市や静岡県磐田市などで一般の日本人家庭でホームステイする。約1週間のホームステイを通じ、アスジャ生が日本文化や生活習慣を体験し理解する事業である。
- ホームステイは小山市、磐田市それぞれの地元ボランティアの方々の協力を得て行われ、アスジャ生は地域の一般家庭に滞在し、日本文化の体験や、日本を代表する地元企業の工場等を見学する。これにより学生たちは、楽しみながら、日本の生活習慣や価値観、文化に対する理解をより一層深めることができている。また、地元の日本人高校生との交流も

あり、アスジャ生が日本についての理解を深めると同時に、日本人高校生が東南アジア諸国への興味を増すきっかけとなっている。

- アスジャ生は滞在先や訪問先についての詳細な資料や情報をあらかじめ配布され、事務局からの説明を受け、事前勉強を行っている。このように、ホームステイ参加まで念入りに準備を行っていくわけだが、参加日前夜は「楽しみと緊張と不安とでなかなか寝られずに、当日朝を迎えました」と、東京出発の集合場所にやってくる学生が例年多く見られる。しかし、現地に到着しホストファミリーや関係者に温かく迎えられると、そのような不安は一気に消えてしまうようで、帰京後は皆一様に「すごく楽しかった！」と事務局に感想を伝えにやってくる。アスジャ生の間で大変人気が高い。

(5) 日本文化体験

- 1日の日本文化体験を通して、留学生が日本の伝統文化に触れる機会を設け、彼らの日本文化への理解を深めるため実施している。
- 歌舞伎や能楽の鑑賞、茶道体験の他、相撲部屋稽古の見学、和菓子作り体験、江戸文化体験、講道館での鏡開式に参加する柔道体験など、伝統文化を様々なジャンルで実際に体験して学ぶプログラムとなっている。



(6) 地方産業文化体験

- アスジャ生の2年生・3年生を対象に、3泊4日で地方に出かけ、日本の企業見学・企業と学生のマッチング、地方文化体験等を行い、日本理解を深めることを目的としている。
- 2015年度は、埼玉県・群馬県・栃木県・福島県に出かけた。製糸産業関連遺産見学では明治の殖産興業政策について、世界遺産日光の見学では江戸時代の幕藩体制について、猪苗代湖と磐梯山滞在では野口英世について、会津若松市の訪問では会津藩の歴史についてそれぞれ学び、さらに地元で活躍する企業の見学を行い、日本の“ものづくり”についても理解を深めた。
- 2016年度は防災をテーマに訪問先を東北とし、東日本大震災で被災した宮城県の各地域を見学し、防災についてのアスジャ生の知識と理解を深める機会を提供した。宮城県・山形県による「首都圏在住留学生モニターツアー（ASEAN）」に参加し、被災地の現在の復興の様子や地方文化の魅力等について、アスジャ生がFacebook等のSNSで母国や世界に発信す

るなどして、海外からの観光誘客の促進を図り、被災地の復興支援にアスジャ生が協力したものである。宮城県では、全国2校目で宮城県初の「災害科学科」を開設している多賀城高等学校を訪問し、防災学習授業を受け、日本の高校生と交流した。4日目はアスジャのオリジナル事業として、ユネスコ世界遺産である岩手県の平泉を見学した。

- 2017年度は、東京に近接していながら自然風土や文化歴史などが恵まれた地域として知られる群馬県を訪問した。初日はカーエアコン用のコンプレッサーで世界シェア25%を占有している会社を見学し、同社が近年推進している産業と環境の共存のための活動事例についても学んだ。また、同社の役員・社員と交流会を行い、地元の群馬大学の学生からも招いて、彼らとの交流を深めた。その後は現地NPO法人の協力を得て、農家民泊（ファームステイ）や地域住民との交流会、高崎だるま絵付け、甘楽町見学、富岡製糸場見学を実施した。
- 今年度は静岡県と長野県を訪れた。初日は富士山五合目で雲一つない青空のもと富士山を拝み、御殿場で地元の青年団や関係者との交流を深めた。2日目以降は、1951年の創業以来バルブを中心とした液体制御機器の総合メーカーとして発展し、現在では世界有数のバルブメーカーとして成長した会社の協力により、同社の茅野工場を見学した。日本のものづくり精神を支える企業文化について学ぶことができた。諏訪では諏訪湖畔にある北澤美術館を見学した。同館はエミール・ガレに代表されるフランスのアール・ヌーヴォー期のガラス工芸の作品を数多く展示している。また、戦後を代表する国民的日本画家として知られる東山魁夷の作品をはじめ、日本画のコレクションも収蔵している。一行は館内を見学し、展示品の美しさに感動するとともに、創設者の作品収集に対する思いについても説明され感銘を受けていた。信州高遠に滞在した折には、こけしの絵付けも行った。アスジャ生の個性を反映してか、ユニークなこけしができがっていた。



(7) ASEAN 祭り（留学生自主事業）

- アスジャ生が自ら企画・実施する事業である。当日は、関係者・一般客を呼んで、自国文化の発表や踊り・ファッションショーを披露し、来場者に対し ASEAN について広く知ってもらうとともに、アスジャ生自身が ASEAN について深く学ぶ機会となっている。

- さらには、企画から運営、当日の実施に至るまでの過程で、アスジャ生がASEANの多様性を実感する重要な事業でもある。多様な価値観の中で協働することを通して、アスジャ生がコミュニケーションとチームワークの重要性を痛感し、時間管理術やタスク管理術を磨き、リーダーシップとフォロワーシップについて目覚める結果となっている。
- アスジャ生は自国の民族衣装に身を包んで来場者を迎え、プレゼンやファッションショー、踊りを繰り広げるため、ASEAN10カ国を一度に身近に体験できる祭りとして、来場者には概ね好評を得ている事業である。2019年は11月23日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催する予定。



(8) アスジャ国費留学生修了式

- アスジャ生の修了式を行い、アスジャで過ごした日々について学生たちが感想を述べる式である。
- 修了生には修了証書が授与され、修了生一人ひとりがアスジャでの日々を振り返って感想を述べるとともに、関係者や後輩たちに向けてメッセージを送る機会となる。
- 加えて、アスジャで1年を過ごした留学生たちが、1年間の交流事業について共同で感想をまとめ、代表者が当日スピーチ発表を行っている。

(9) ASEAN 国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ

- アスジャ国費留学生と、日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生・大学院生が、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて3泊4日の合宿をし、英語で意見交換を行い、相互理解を深めることを目的として、2014年度より実施している。
- 2018年度は8月30日から9月2日にかけて行われ、早稲田大学、上智大学、東京外国語大学、千葉大学、東北大学、埼玉大学、京都大学、大阪大学、東京大学、東京藝術大学、明治大学の日本人学生33名が参加した。アスジャ生は35名が参加した。
- 日本・ASEANをテーマに、学生たちが英語によるディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行うもので、プレゼン前夜はパワーポイントの仕上げのため徹夜する学生が毎年多く存在するほど、大変ハードなスケジュールで進められる。しかしながら、朝から晩まで英語によるコミュニケーションが続く合宿生活を送ることで、都内にいながら

にして留学体験が味わえると、参加者や参加者が所属する日本の大学関係者からは一定の評価を得ているところである。詳しくは以下のウェブサイトを参照されたい。なお、2019年度は8月29日（木）から3泊4日の日程で開催が決まっている。

- アスジャ・インターナショナル（2018）「平成30（2018）年度アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ」<https://asja.gr.jp/fy2018workshop>
- アスジャ・インターナショナル（2018）「アスジャ・インターナショナル主催『アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ』ご報告」
<https://asja.gr.jp/workshop/2018-02.html>



3. 福田ドクトリンとアスジャ・ASCOJA

以上紹介したように、アスジャは設立以来、ASEAN からの留学生を継続的に受け入れ交流事業を実施しているが、それらは「福田ドクトリン」の精神を踏まえ運営されているものである。最後に、福田ドクトリンとアスジャの関係について、ここで簡単に紹介したい。

福田ドクトリンは、1977年8月17日、当時の福田赳夫内閣総理大臣が、ASEAN 諸国歴訪の最後の訪問地であるフィリピン・マニラで発表したスピーチであり、次の三原則で締めくくられている。

- (1) 日本は軍事大国にならず、ASEAN ひいては世界の平和と繁栄に貢献する。
- (2) 日本は ASEAN の国々との間に、真の友人として「心と心の触れあう」相互信頼関係を構築する。
- (3) 日本と ASEAN は対等なパートナーであり、日本は ASEAN およびその加盟国の連帯と強化に協力し、東南アジア全域にわたる平和と繁栄の構築に寄与する。²

福田ドクトリンは、その後の日本の ASEAN 外交政策の基軸となった。また、福田ドクトリンの発表に3年先立つ1974年に、当時大蔵大臣であった福田赳夫元総理の呼びかけで外務省招聘事業「東南アジア元日本留学者の集い」が始まった。この集いで交流を深めた参加者たちが中心となり、ASEAN 各国の元日本留学者同士の交流を目的として、ASCOJA が1977年6月に設立される。ASCOJA は、元日本留学者が組織する ASEAN 各国の元日本留学生会の連合体組織であり、各国において日本文化や日本語などの普及活動を、日本大使館と連携しながら実施している。

この ASCOJA の日本側カウンターパートとして、外務省の拠出金を受けて2000年4月に設立されたのが、アスジャである。

福田ドクトリンが掲げる「心と心の触れあう」相互信頼関係を礎として、アスジャの交流事業はこれまで実施されてきた。交流事業を体験しアスジャを修了した留学生は、先述の通り 2017 年度までに 137 名に達しており、日本と ASEAN との友好協力関係を担う架け橋として各方面で活躍している。今後も毎年 20 人前後の留学生がアスジャを修了する予定である。

また、アスジャは、ASCOJA のカウンターパートとして、ASCOJA や各国元日本留学生会の活動の支援事業、及びアスジャ・ASCOJA ネットワーク強化支援事業も行っている。ASCOJA が毎年開催する ASCOJA 総会・幹部会に出席し、ASCOJA 加盟の元日本留学生会と連携を深め、ASCOJA・留学生会との共催による国際シンポジウムを年数回実施している。東京では毎年アスジャ理事会を開催し、ASEAN 各国からアスジャ理事・ASCOJA 幹部を招聘し、理事会期間中に開催される ASCOJA 幹部会の支援も行っている。

今後も ASCOJA や元日本留学生会との連携により交流事業を実施し、日本と ASEAN の友好関係を将来支えることになる架け橋リーダーの育成に努めてまいりたい。

¹ 外務省 (2016) 「国際機関等に対する拠出の評価の実施 任意拠出金 アセアン留学生交流等拠出金」 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000184710.pdf> (2019年3月20日アクセス)

² 外務省 (2010) 「わかる！国際情勢 Vol. 64 ASEAN と日本～アジアの平和と繁栄のために」 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol64/index.html> (2019年3月19日アクセス)